



「ツレがうつになりました。」

配偶者のことを「ツレ」といいますが、映画のタイトルもそういう意味。結婚して以降夫のことをツレと呼んでいたマンガ家の妻。ある朝、外資系IT会社に勤めていたツレが疲れた表情で「死にたい」と真顔で言い出しました。医者に診てもらおうとうつ病でした。「心のカゼ」と言われるうつ病。しかしカゼのように簡単には治りません。

夫婦での闘病生活が始まります。うつに苦しむ夫の姿を見て、妻は自分がいまままでどれだけ夫に甘えていたかを実感します。夫に養ってもらっていたこれまでと違い、自分が夫を支えるという生活の中で、夫への深い愛を再確認していきます。そして妻はうつ病を「宇宙カゼ」と呼び、ツレの倦怠感、自殺未遂、症状

の改善などあらゆるできごとについて、マンガのタッチで日記のように表現していきます。はたしてツレはうつ病を克服し、回復できるのでしょうか。映画のキャッチコピーは「ガンバらないぞ！」

原作は、マンガ家・細川貂々ほしかわたまごが2006年3月に幻冬舎より出版したコミックエッセイ。夫婦役は宮崎あおいと堺雅人。大河ドラマ「篤姫」でも夫婦役でした。

うつ病に寄り添う夫婦の対処法

教育とは学校で習ったことをすべて
忘れた後に残っているところのものである
アインシュタイン

学校で教わるものはなにも教科でだけではない。教師との触れ合い、友情、学問の方法などいろいろである。受け身的に教えられたことは身につかないことが多いが、主体的に教わったことは身につくものである、との意味です。ところで、アインシュタインはカトリック系の公立学校に、卒業後はギムナジウムに通ったものの、いずれも校風になじめなかったとされています。

1616年スウェーデンが



阪急正雀駅⇄正雀川⇄安威川⇄川園公園⇄味舌(ました)のせせらぎや彩り豊かな花と緑があふれる、さわやか健康散歩道。通称「あしあと公園」

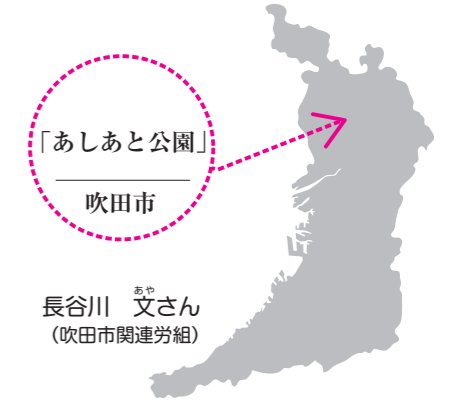
ただ変わらずここに流れているだけ。静かにこれからもそこにいてほしい。いつまでもキラキラしていてほしいと思う。

水がきれいな訳でもないし、自然が多い訳じゃない。いろいろな悩みながら帰っても、キラキラしているのを見ると、悩みを忘れて見入ってしまった。台風がきてもそんなに荒れることのない。今の仕事をする前、橋を渡って行っていた。

私が0歳のときから通っていた保育園がこの川沿いにあった。お散歩は決まって川沿いの「あしあと公園」行きつけの病院も側にあつて、入院したときは窓から川を眺めてた。小学校の頃はよくここで泥団子を作って川に投げていた。花火をするのも風上げをするのも、ここだった。阪急の線路をくぐるとそこはもう未知の世界。くぐるときのドキドキ感は今でも

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 01



思い出キラキラ… 神崎川沿いの「あしあと公園」

Culture Navi かるチャーナビ

平和の種まく人 01 九条の花を咲かせよう

土井 正義さん(羽曳野市)

私が小学生の戦争中のある時、墜落死しているアメリカ兵を「こいつが敵や!」とみんなで蹴り続けた光景が記憶にある。戦争は、人の気持ちを荒廃させ、考える力をなくさせる恐ろしいもの。私は「子どもや孫たちの世代には二度とこんな思いをさせたくない。人間性豊かな平和な社会であって欲しい」と思う。



教員を退職後「はびきの9条の会」で活動している土井正義さん(78歳)

私が活動している「9条の会」では、子どもたちに「戦争を語る会」を開いている。今の生活からは想像しにくい話の内容に、「なぜ食べるものがないの?」「なぜ訓練はやめて逃げられないの?」など熱心な質問がでる。また、九条は必要か必要でないか…の「シール投票」では、「中間」と旦那さんが線上にシールを貼ると奥さんが「何でアンタは戦争に反対せーへんのよ」という場面も…。

平和で当たり前だからこそ、改めて「平和と戦争」を考える機会を作り「戦争への道にストップをかけること」につなげたい。

墜落死したアメリカ兵を蹴り続ける、…それが戦争

文章の法は言葉をつづめて
理のあらわるるを本とす

ぜあみ 世阿弥

「文章は意味がはっきりするように書くことが大切である。最も簡単で最もおもしろい文章を書くことは最も難しい」。能楽の大成者として後世の文化・思想に大きな影響を与えた世阿弥(1363年?~1443年?)の名言です。文章の極意は今も昔も変わらないものですね。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録